

知事との県民対話集会（塩尻市）概要

- ・開催日時 令和5年8月21日（月） 午後2時30分から午後4時まで
- ・会場 ウイングロード2階 core塩尻アイデアラボ
- ・参加者 県民20名、百瀬塩尻市長、阿部知事、宮島松本地域振興局長
- ・テーマ 学生・若者が多様な生き方・働き方とつながり、若者から選ばれる地域になるには

・主な発言（要旨）

【参加者】

・「地域の人事部」というコンセプトで学生のキャリア教育や社会人のキャリアアップを支援している。学生や若者にとって、ワクワクする生き方、働き方に触れられる機会を得たり、魅力的な大人との時間の共有が可能で、挑戦や活躍を応援してくれる地域社会の存在が重要。
・将来を担う人材育成に関する施策が縦割りだと感じる。行政も縦割りを排して、次世代に投資してほしい。

【参加者】

・高校時代に塩尻市のシビック・イノベーション拠点のスナバで学校以外の学びと多様な世代との交流を経たことが大きな経験となっている。地域の大人と出会って自分を見つけられることが高校生にとっては大切であり、地域への愛着が生まれるのではないかと。

【知事】

・教育については、成績だけではなく、その人に合う学校という概念も大切であると思う。長野県では、フリースクールの認証制度を検討中である。これまでは唯一の知の拠点が学校だったが、今は学校以外にも学びの場がある。学校だけを学びの場とせず、地域社会を学びの場とする方向性も今後は必要であると思う。
・長野県こそ副業、兼業を推進していくべき。今後の人口減少局面では一人多役が求められる。県でも副業人材を登用し、県職員も農業などで兼業許可制度を活用している。一つの仕事にとらわれず、地域に役立つ活動に関わることを広げていきたい。
・人材に関する取組が縦割りのご指摘については、農業、林業などの分野ごとに人材を育成している面もあるが、横断的に取り組まなければいけないこともあると思う。
・女性や若者に選ばれる場所になるためには、長野県のことを知ってもらわなければならない。長野県で生まれ育った人が地元のおよさを知る機会も必要であり、高校教育の中でも信州学を取り上げている。

【参加者】

・高校と家庭だけで居場所が限られていると感じていた。スナバでの活動を通じて、これまで出会うことのなかった大人と話すことができ、世界が広がった。他の学生にもそうした機会やつながりを得てほしい。

【参加者】

・住民である自分たちが自慢したいまち、推したいまちをつくるのが大切であると思う。学生や若者が先頭に立ち、そこに専門家や行政が加わった“推しまち”プロジェクトなど緩やかな部活動的な取組を進めていくことはどうか。

【知事】

・学校と家庭以外の第3の場所があれば、追い込まれずに済む人もいる。
・長野県内の77市町村には、それぞれ個性がある。その個性を活かして若い人たちがどうすれば地元をよくできるかという楽しい視点でつながっていけばよいと思う。
・社会は自分たちで変えられるということを若いうちから経験してほしい。若い人たちが、チャレンジしたり問題提起すれば社会が変わるということを具体的な形で示していきたい。

【宮島地域振興局長】

・人とのつながりは非常に重要。私たちも地域に寄り添って対話を進めて、地域の皆さんに身近な存在になれるよう努めたい。

【参加者】

・働き方は変わっても、家庭での子育て、育児の大変さは変わらない。少子化が進む現状で、行政はどのように関わっていただけるのか教えてほしい。

【知事】

・若い人たちが希望と安心を持ち辛い世の中になっている。若い人たちの給料が上昇していないことも問題。家庭で子育てしたい人、預けて子育てしたい人の双方が、平等に尊重されることも必要であると思う。

・子育て支援の充実は、これからの行政にとって一丁目一番地の課題である。行政だけでは手が届かない部分もあるため、NPOなどの地域の皆さんともよい形での連携・協働を行っていくことが重要であると考えている。

・今後、県としても少子化・人口減少対策戦略検討会議を立ち上げて対応していくところである。

【参加者】

・林業をなりたい職業10選に入るようにしてほしい。例えば、林業従事者の年収が1,000万円を超えるような地域にしてほしい。

・しあわせ信州創造プラン3.0の概要版冊子にオーガニックの記載がない。私が自然農法で育てているお米が市のふるさと納税の返礼品に選ばれたのは、移住した子育て世代の支持があったためである。若者から選ばれる県となるためにオーガニックという視点があってもよいと思う。

【知事】

・本県を林業県として発展させていくためには、信州F・POWERプロジェクトをしっかりと継続していくことが重要であると考えている。

・林業に関しては、生産性と所得の向上が必要。県も原木供給のあり方を検討するプロジェクトチームをつくる。全体の流通と仕組みを考え直さなければならない。長野県の林業が未来に向けて発展するよう、このプロジェクトで考えていきたいと思う。

・林業従事者の人材確保と育成について、伊那谷、木曾地域を含むこの地域を森林・林業人材の育成拠点としていきたい。

・農業のオーガニックの話については、食の安全安心、農産物の輸出等の面からも重要だと思うが、出遅れている部分もある。オーガニックに取り組んでいる農業者も増えており、県もその動きを支援する方向にはある。問題意識を持って取り組みたい。

【参加者】

・地域の子ども食堂では、16時から18時を子ども食堂として、18時から20時を居酒屋として営業し、居酒屋での売上を子ども食堂の運営に充てている。大人が地域の取組を支える事例として紹介したい。

・小中学校時代から、様々な職業体験をする機会を増やしてほしい。

【知事】

・学校以外の子どもたちの居場所をもっと充実させていきたい。また、子どもたちが様々な大人と接し、様々な職業を体験できるように取り組んでいきたい。

【参加者】

・長野県の20歳未満の自殺死亡率は、全国2番目の高水準である。若者に選ばれるまちの実現のためにも、対策予算の増額など、若者の自殺対策に積極的に取り組んでほしい。

【知事】

・子どもや若者の自殺が多いことについては深刻に受け止めている。子どもの自殺危機対応チームにより、リスクの高い子どもに個別の対応ができる体制をつくっている。

・自殺に至るまでに様々な要因が積み重なっていることから、外部の専門家に関わってもらうことや対応チームをつくることなど複合的な対応が必要。また、学校と社会が開かれた形でつながり、子どもたちに学校の先生だけでなく地域の大人たちも関われるようにするべきであると思う。